

すべての医療行為には
インフォームド・コンセントが必要

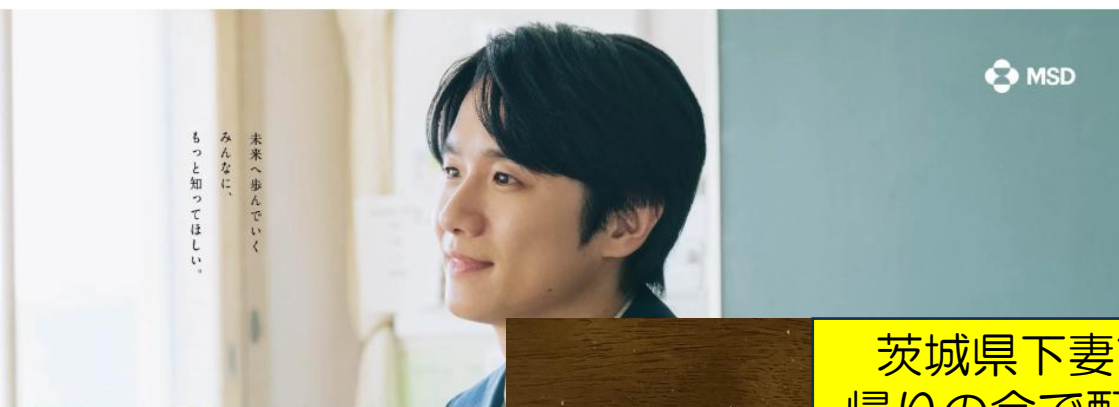
Informed Consent

(Information=情報) (Consent=同意)

(その人が) 十分に情報を知らされた上での同意

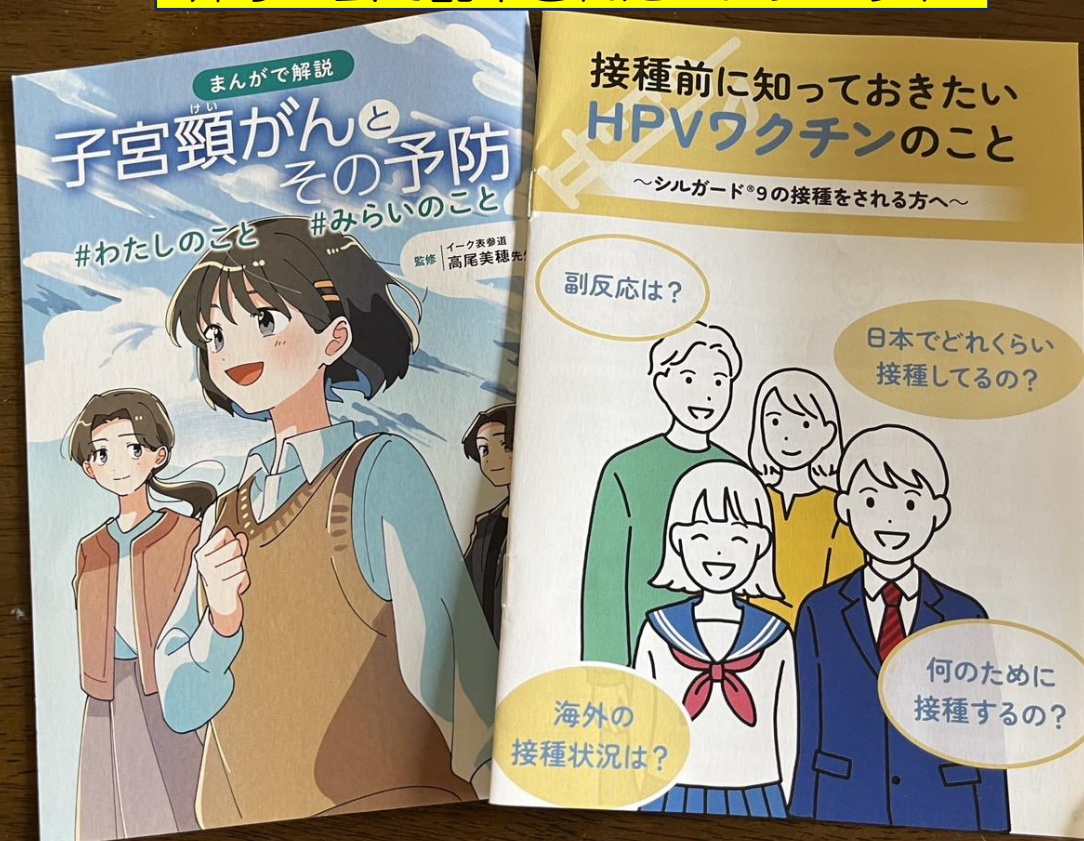
医療行為の一つであるワクチン接種においても

有効性と安全性について十分に知らされた上での同意が必要



HPVワクチンを 夏休みに打たせたい 製薬企業

茨城県下妻市の中学校で1年生の
帰りの会で配布されたパンフレット



子宮頸がん予防

HPVワクチンについては

- いまメディアやSNSではメリットばかりに偏った情報しか流れていません
- でも厚労省や公的機関、製薬企業の公表資料をよく読むと、**効果の限界や、リスクに関する情報**もちゃんと書いてあります

そして

- 子宮頸がんには他の予防方法があります

検診という害の少ない代替手段があります

→**国の公表資料などをよく読んで考えてみましょう**

国立がん研究センター がん情報サービス

がん情報サービス
ganjoho.jp

サイト内検索

医療関係者向け | がん統計 | がんの臨床試験を探す

病名から探す | 治療と生活 | 制度やサービス | 世代別の情報 | 予防・検診 | 資料室

HOME > がんの予防・検診 > がん検診 > 子宮頸がん検診について

がん検診 けい 子宮頸がん検診について

1. 子宮頸がんとうがん予防 | 2. 子宮頸がん検診の方法 | 3. 子宮頸がん検診の判定後の流れと精密検査 | 4. HPV陽性と判定された場合の注意点 | 5. 子宮頸がんの治療後と子宮の手術後の検診について

がん検診

がん検診について

胃がん検診について

子宮頸がん検診について

つまり、HPVに感染しても、多くの場合は自然にウイルスが少なくなるため、前がん病変になっても進行しないか、改善する場合もあり、全員が子宮頸がんへ進行するわけではありません。

子宮頸がんの95%以上は、HPVが子宮頸部に2年以上持続して感染していた人から発生します。HPVは性交渉によって感染するウイルスです。そのため、若い人ではHPVの感染率が高いですが、HPVに感染した人が必ず子宮頸がんになるわけではありません。

図1ではHPV感染からどの程度の確率で子宮頸がんへ進行するのかを説明します。性交渉をしたことがあると80~90%の人がHPVに感染するといわれています。女性が10,000人いるとしたら(図1の①)、8,000人程度がHPVに感染したことがあると考えられます(図1の②)。しかし、HPVに感染しても、多くの場合(約80~90%)は、2年以内に免疫の働きによってウイルスは自然に少なくなり、検査では検出されなくなります(図1の③、7,500人程度)。一方、ウイルスが長期間(2年以上)検出され続ける場合には(図1の④、500人程度)、その後、数年から数十年かけて、**がんになる前の状態(前がん病変)**を経て(図1の⑤CIN1、80人程度/⑥CIN2、10人程度/⑦CIN3、2人程度)、**子宮頸がん**が発生することがあります(図1の⑧、1人)。

つまり、HPVに感染しても、多くの場合は自然にウイルスが少なくなるため、前がん病変になっても進行しないか、改善する場合もあり、全員が子宮頸がんへ進行するわけではありません。

がん情報サービス

病名をキーワードで検索

病名をキーワードで検索

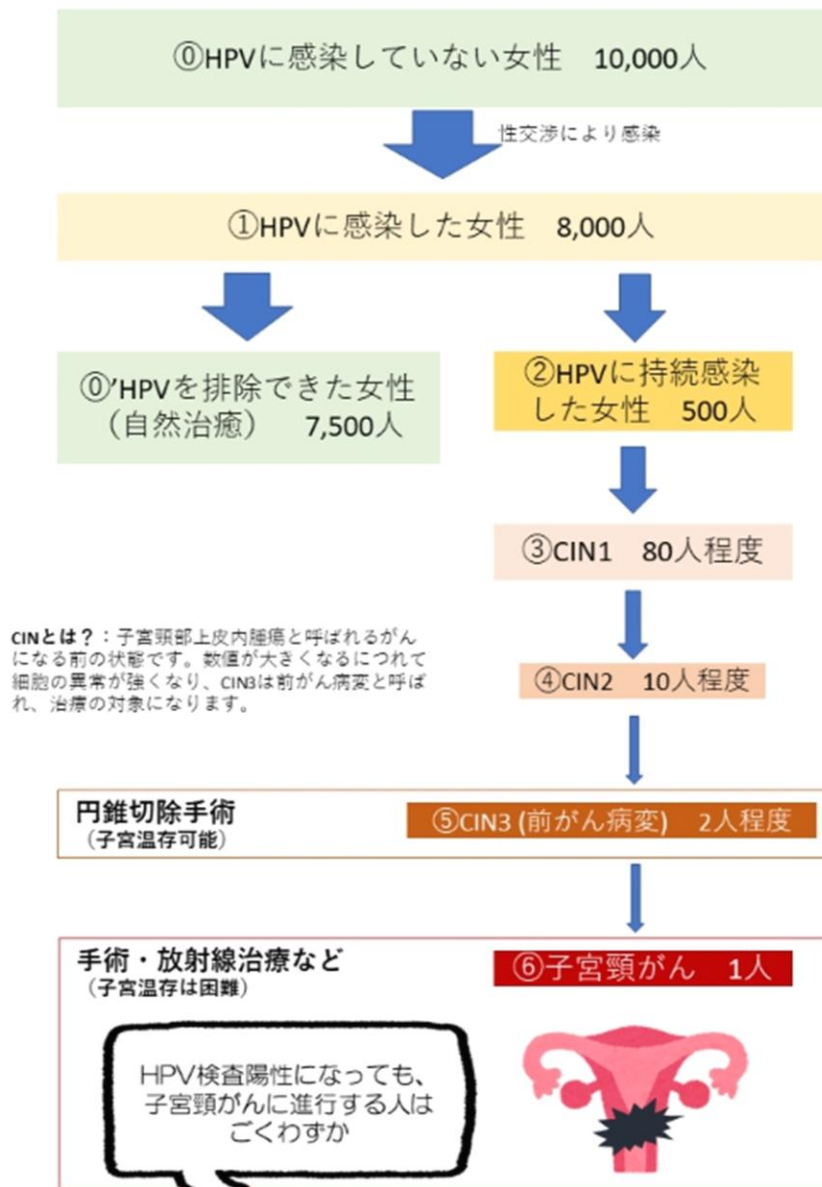
部位・臓器から探す

50音順から探す



よりよい情報提供を行うために、アンケートへの協力

図1 HPV感染から子宮頸がんへの進行



以下の論文を参考に作成
Plummer M. J Infect Dis. 2007; Jaisamram U. PLoS One. 2013;
Matsumoto K. Int J Cancer. 2011; McCredie MR. Lancet Oncol. 2008

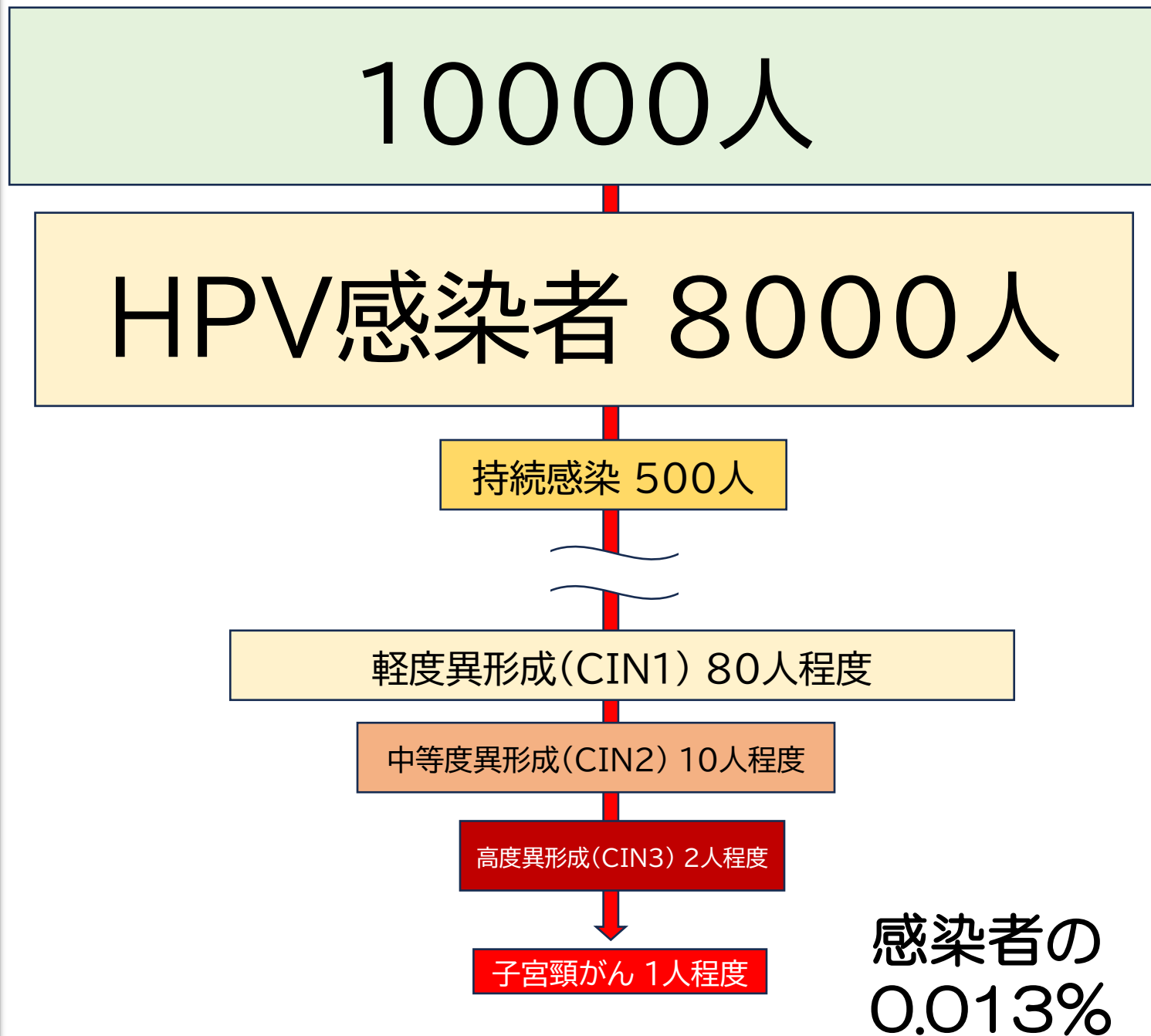
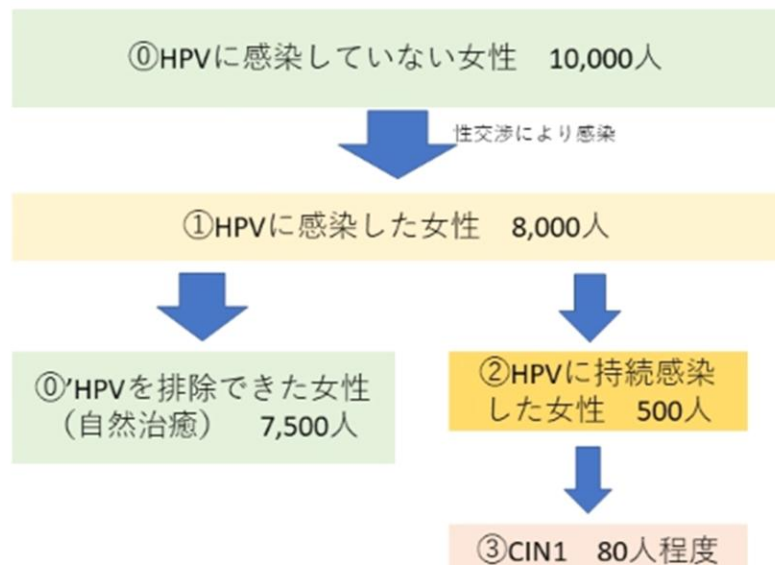


図1 HPV感染から子宮頸がんへの進行

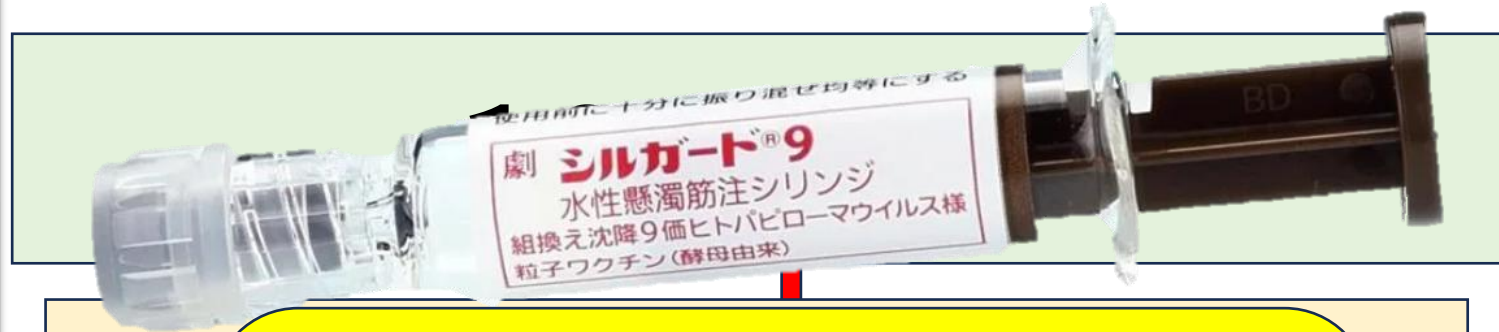


(実際にはそんなことはないが)
仮にワクチンの効果が100%だったとしても
1人の子宮頸がんを防ぐために10000人が
ワクチンを打たなければならない
1人の死亡を防ぐためには約40000人が
ワクチンを打たなければならない

HPV検査陽性になっても、
子宮頸がんに進化する人は
ごくわずか



以下の論文を参考に作成
Plummer M. J Infect Dis. 2007; Jaisamram U. PLoS One. 2013;
Matsumoto K. Int J Cancer. 2011; McCredie MR. Lancet Oncol. 2008



ト 9億円+副反応

持続感染 500人

軽度異形成(CIN1) 80人程度

中等度異形成(CIN2) 10人程度

高度異形成(CIN3) 2人程度

子宮頸がん 1人程度

感染者の
0.013%

他の子どもの定期接種13種類との比較

2026年7月の副反応検討部会資料から

ワクチン名	総出荷本数	製造販売業者	医療機関	
			報告	うち重篤
MR	30,827,000	208	604	300
水痘	25,866,358	183	395	238
DT	18,993,084	13	219	50
DPT+ポリオ	40,775,225	483	911	475
DPT+ポリオHib	4,804,005	91	108	82
Hib	41,268,443	923	1124	779
20価肺炎球菌	3,679,863	62	76	59
15価肺炎球菌	2,020,957	35	45	24
BCG	11,427,803	232	1355	301
日本脳炎	52,572,619	151	760	338
B型肝炎	59,765,935	657	744	517
ロタウイルス	11,699,913	880	8,110	360
5価ロタウイルス	9,315,294	469	258	200
計	313,016,499	4387	7037	3723

約3億1300万回

ワクチン名	総出荷本数	製造販売業者	医療機関	
			報告	うち重篤
サーバリックス	7,076,543	967	1612	556
ガーダシル	4,649,082	430	761	250
シルガード9	6,751,739	402	532	125
計	18,477,364	1799	2905	931

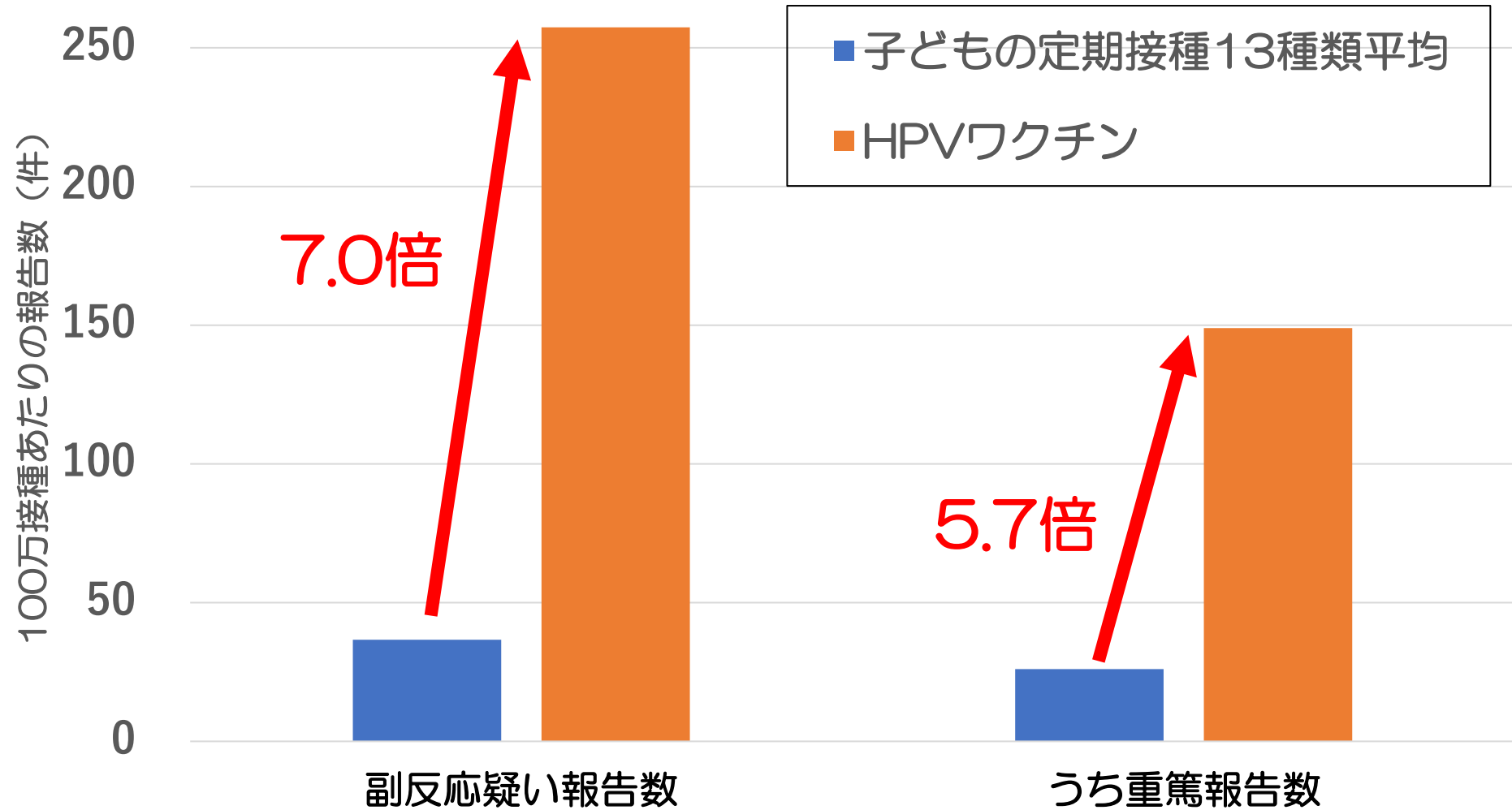
2,730

約1,848万回

	100万接種あたりの	
	副反応疑い報告	うち重篤報告
子どもの定期接種 13種類平均	36.5	25.9
HPVワクチン	254.6	147.7

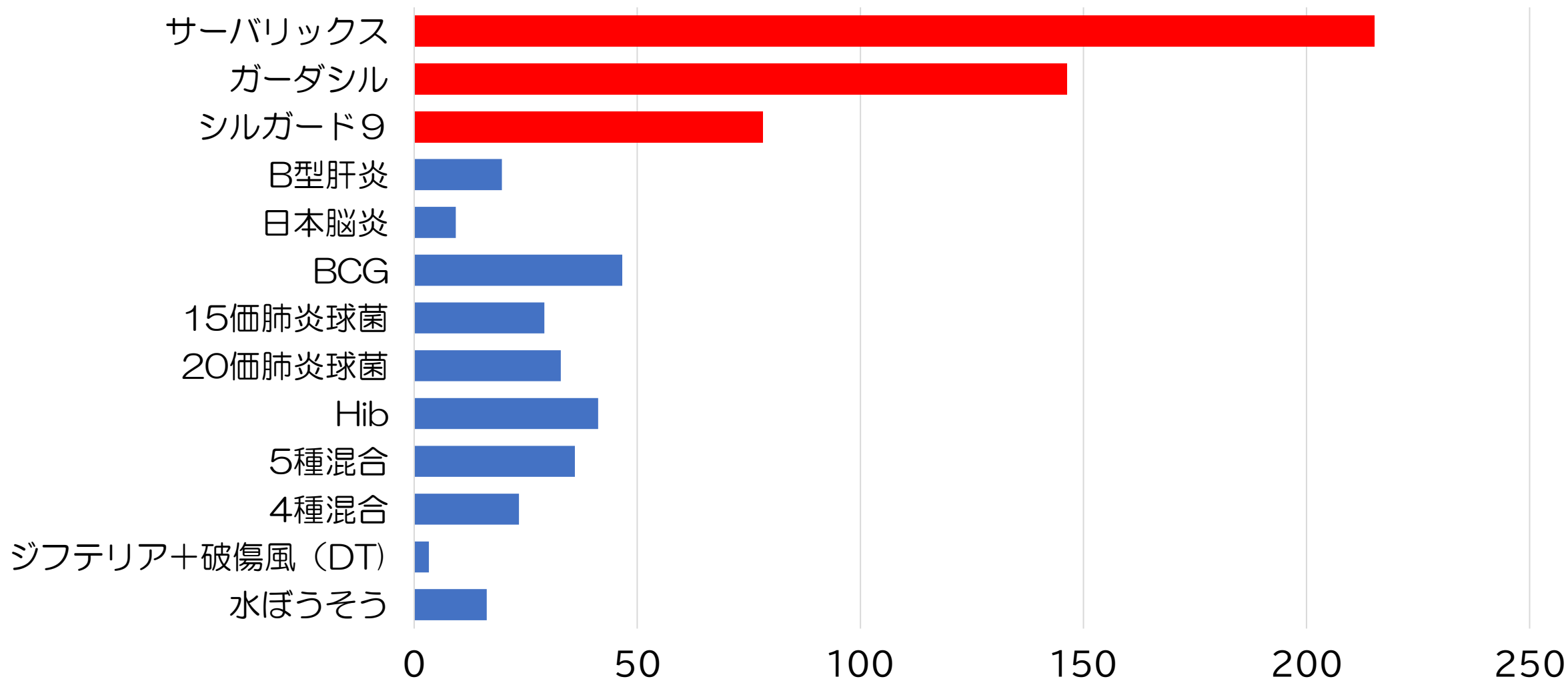
7.0 倍 5.7 倍

HPVワクチンは副反応報告頻度が高い 公表はされているが メディアは伝えない



100万接種あたりの重篤副反応疑い報告数

(2026年7月24日副反応検討部会資料)



その受診患者数は？

第112回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会
令和8年度第4回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会

2026(令和8)年7月24日

資料
3-3

令和8年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)

「HPVワクチンの安全性に関する フォローアップ研究」

(研究代表者：岡部信彦)

川崎健康安全研究所
岡部信彦
国立成育医療研究センター 政策科学研究部
竹原健二・山本依志子

接種者が増えると患者数が急増していた

HPVワクチン接種後に症状を呈した患者のサーベイランス受診患者数（2022年度）									
・速報値 （2026年7月1日時点）									
（人）	回答施設数	ワクチン納入数（*1）	合計受診患者数（新規＋継続）	新規受診患者数	継続受診患者数（*2）	ワクチン接種から			
						1週間以内に発症した患者数（*3）	1週間以降、1ヶ月以内に発症した患者数（*3）	1ヶ月以降に発症した患者数（*3）	発症時期不明
2022年3月分	63	99,003	47	5	42	1	2	1	1
2022年度									
4月分	62	65,466	33	6	27	3	1	2	0
5月分	67	72,324	35	6	29	2	0	3	1
6月分	66	121,807	45	9	36				0
7月分	65	140,073	45	13	31				1
8月分	66	193,107	47	15	32				1
9月分	69	159,885	54	15	39				0
10月分	65	155,356	53	18	35				0
11月分	69	125,470	57	16	41				0
12月分	69	113,542	52	9	43				0
1月分	65	99,641	42	14	28	8	2	4	0
2月分	69	109,865	46	6	40	3	1	1	1
3月分	67	216,905	57	10	47	7	1	2	0
※1 9価ワクチンを含む ※2 1ヶ月内の複数回受診は1人とカウント ※3 新規患者のみ対象									

2022年度
新規受診患者
137人

2023年度									
4月分	67	197,007	29	8	21	4	1	2	1
5月分	61	90,551	34	5	29				0
6月分	64	143,330	56	18	38				4
7月分	64	143,566	40	10	30				0
8月分	63	210,165	57	12	45				0
9月分	64	120,944	58	21	37				1
10月分	62	124,802	42	5	37				0
11月分	64	120,015	54	18	36	14	3	1	0
12月分	63	108,001	51	19	32	9	3	5	2
1月分	62	109,953	37	9	28	7	1	1	0
2月分	60	114,705	46	9	37	4	4	1	0
3月分	63	216,544	58	9	49	3	0	6	0
※1 9価ワクチンを含む ※2 1ヶ月内の複数回受診は1人とカウント ※3 新規患者のみ対象									

2023年度
新規受診患者
143人

2024年度									
4月分	58	175,445	43	12	31	7	2	3	0
5月分	57	123,566	40	12	28	8	2	2	0
6月分	59	176,133	68	25	43	20	5	0	0
7月分	59	280,804	64	21	43			1	1
8月分	60	571,426	65	25	40			2	0
9月分	62	550,013	87	45	42			0	0
10月分	69	552,795	115	60	55			7	0
11月分	67	597,151	116	56	60			8	1
12月分	66	550,555	98	31	67			10	0
1月分	64	25,010	85	26	59	10	6	8	1
2月分	66	15,038	71	12	59	5	4	3	0
3月分	61	640,306	86	14	71	11	0	2	1
※1 9価ワクチンを含む ※2 1ヶ月内の複数回受診は1人とカウント ※3 新規患者のみ対象									

2024年度
新規受診患者
339人

2025年度									
4月分	71	70,127	83	33	50	24	7	2	0
5月分	71	33,482	84	23	60	16	2	4	1
6月分	71	37,612	69	12	57	7	3	2	0
7月分	71	53,460	76	13	63			1	0
8月分	72	104,073	59	11	48			6	0
9月分	78	103,787	67	15	52			5	0
10月分	84	126,839	64	15	48			2	0
11月分	82	65,652	64	7	50			3	0
12月分	81	75,293	55	7	48			1	0
1月分	80	200,679	45	2	47	1	0	1	0
2月分	82	92,927	55	5	50	1	1	3	0
3月分	79	9,050	63	9	49	4	3	2	0
※1 9価ワクチンを含む ※2 1ヶ月内の複数回受診は1人とカウント ※3 新規患者のみ対象									

2025年度＋2か月
新規受診患者
166人

2026年度									
4月分	75	70,127	49	7	42				
5月分	69	33,482	23	7	16				
※1 9価ワクチンを含む ※2 1ヶ月内の複数回受診は1人とカウント ※3 新規患者のみ対象									

2025年度
ついに
男性 2 人

新規受診患者数
勧奨再開後4年2か月間で
785人

協力医療機関受診に至る頻度

2022年4月の勧奨再開以後の4年間

- 初回接種者数は約301万人

- 新規受診患者数は771人

$$771 \div 301 = 2.6$$

接種者 1万人あたり約2.6人
約4000人に1人

早期発見して助かっている実績を 産婦人科医らは良く知っている

報 告

2023年の患者年報

婦人科腫瘍委員会報告

2023 年患者年報

婦人科腫瘍委員会の2023年患者年報（2023年1月1日～12月31日治療開始症例）の報告をいたします（488機関）。

従来から、患者年報のデータについては、本委員会で登録データを解析し、各登録機関への疑義照会を行っておりました。データのさらなる品質向上を目的として、2013年患者年報よりデータマネジメントのシステムを見直し、プログラム化した疑義照会を実施しております。

腫瘍登録に参加していただいた加盟機関の先生方の多大なご尽力に感謝申し上げます、また婦人科腫瘍委員会の全委員および統計解析の委託先である岩手医科大学教養教育センターに御礼申し上げます。今後とも患者年報・治療年報のさらなる充実を目指してまいりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

婦人科腫瘍委員会委員長 佐藤 豊実

進行期	例数
CIN3	15,399

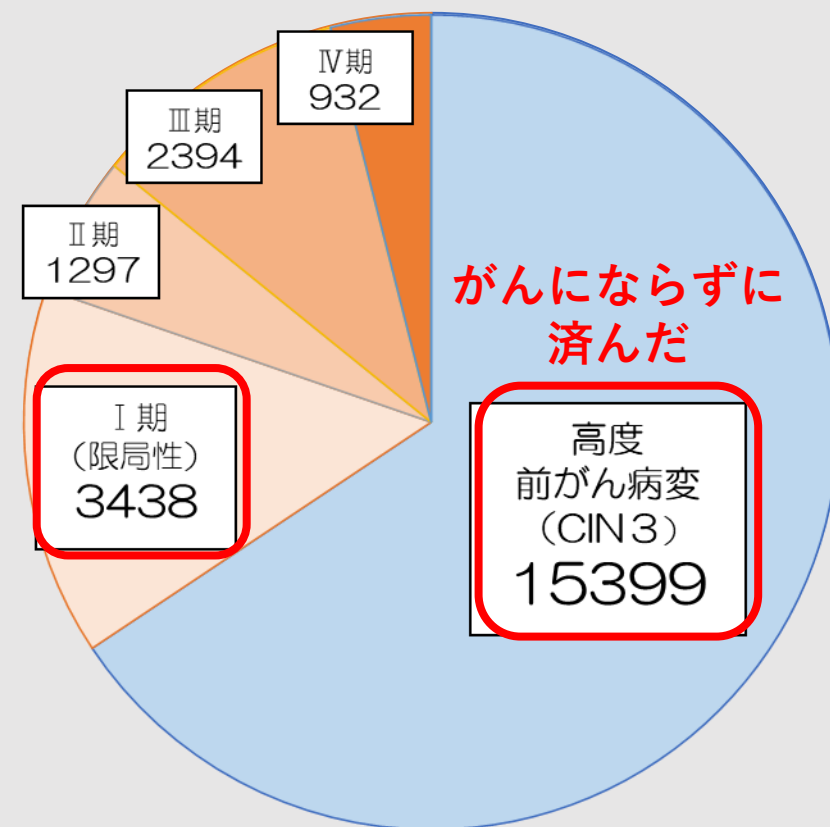
がんになる前に見つけた！
15399人

進行期	例数	%	細分類	例数	%
I期	3,438	42.6	IA1期	1,202	14.9
			IA2期	364	4.5
			IA期(亜分類不明)	14	0.2
			IB1期	512	6.4
			IB2期	832	10.3
			IB3期	421	5.2
			IB期(亜分類不明)	6	0.1
			I期(亜分類不明)	87	1.1
II期	1,297	16.1	IIA1期	220	2.7
			IIA2期	167	2.1
			IIA期(亜分類不明)	8	0.1
			IIB期	902	11.2
			II期(亜分類不明)	0	0.0
III期	2,394	29.7	IIIA期	95	1.2
			IIIB期	293	3.6
			IIIC1r期	1,005	12.5
			IIIC1p期	549	6.8
			IIIC2r期	398	4.9
			IIIC2p期	39	0.5
			IIIC期(亜分類不明)	13	0.2
			III期(亜分類不明)	2	0.0
IV期	932	11.6	IVA期	262	3.3
			IV期(亜分類不明)	0	0.0
合計	8,061				

がんになって見つかった
8061人

早期がん（I期）で見つけた！
3438人(43%)

子宮頸がんになりそうな日本の女性



結論 厚労省の資料もよく読めばわかる

20歳を過ぎたら2年に1度の子宮頸がん検診
でがんの予防も可能

前がん病変で発見できる

一方、接種して重篤副反応になってしまったら
将来の夢を諦めることになるかもしれない

→ ちゃんとした治療は受けられないし

被害を訴えると攻撃されるおそれもある